

ジャーナリズム公開講座

開催日はいずれも木曜日、時間は18:30～20:30

入場無料、申込み順先着80名 どなたでも参加いただけます。

健全なジャーナリズムこそ民主主義の基本です。

	<p>第11回／川村二郎（元『週刊朝日』編集長）12月20日（B-nest）</p> <p>「朝日新聞と日本語」 1941年東京生まれ。慶応義塾大学経済学部卒。64年、朝日新聞社に入社。70年、東京本社社会部。75年、『週刊朝日』編集部員。82年、『週刊朝日』副編集長。89年、編集長。91年、朝日新聞編集委員。2001年、定年退職。2年間嘱託の後、日本医師会広報委員、日本語検定委員会審議委員（現・顧問）、学習院生涯学習センター講師を務めている。著書に『いまなぜ白洲正子なのか』『孤高 国語学者大野晋の生涯』『夕日になる前に だから朝日は嫌われる』『社会人としての言葉の流儀』など。</p>
	<p>第12回／立岩陽一郎（「ニュースのタネ」編集長、元NHK記者） 2019年1月31日（B-nest）</p> <p>「踊らされる日本の米朝報道～関係者、関係筋情報に依拠した報道のまやかし～」 1991年一橋大学卒業。放送大学大学院修士課程修了。NHKでテヘラン特派員、社会部記者、国際放送局デスクとして主に調査報道に従事。政府が随意契約を恣意的に使っている実態を暴き随意契約原則禁止のきっかけを作ったほか、大阪の印刷会社で化学物質を原因とした胆管癌被害が発生していることをスクープ。「パナマ文書」取材に中心的に関わった後にNHKを退職。公益法人「政治資金センター」理事として政治の透明化に取り組む。著書に「トランプ王国の素顔」（あけび書房）、「NPOメディアが切り開くジャーナリズム」（新聞通信調査会）他。</p>
	<p>第13回／軽部謙介（時事通信論説委員）2月28日（静岡県教育会館）</p> <p>「アベノミクスと報道」 1955年東京都生まれ。79年早稲田大学卒、時事通信社入社。社会部、福岡支社、那覇支局などを経て東京本社経済部へ。ワシントン支局特派員（92-96年）、経済部次長、ワシントン支局長（2004-07年）、ニューヨーク総局長（07-09年）、編集局次長、解説委員長等を経て現職。著書に『官僚たちのアベノミクス』『日米コメ交渉』『検証 バブル失政』など。</p>
	<p>第14回／山崎 毅（食の安全と安心を科学する会理事長） 3月28日（B-nest）</p> <p>「『食の安全・安心』はリスクの大小を比較することから」 1960年広島県生まれ。東京大学農学部卒。獣医学博士、リスク学者。1985年、湧永製薬入社。米国ロマリダ大学医学部客員研究員を経て、94年からWakunaga of America社でサプリメントの研究開発と学術業務に従事。2011年NPO法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)を創立、理事長に就任。社会活動として食生活ジャーナリストの会(JFJ)事務局長、NPO法人ファクトチェック・イニシアティブ(FIJ)理事。専門分野は食のリスクコミュニケーション、機能性食品。</p>

第1回／常岡浩介（ジャーナリスト）2018年4月26日 「国際報道とロシアの宣伝工作」
第2回／高英起（デイリーNKジャパン編集長）5月31日 「米朝首脳会談に向けた金正恩氏の本音」
第3回／澤康臣（共同通信記者）6月28日 「世界の極秘情報を暴いた国際調査報道記者連合」
第4回／西本幸恒（文藝春秋編集者）7月19日 「ノンフィクションと調査報道の現場」
第5回／菱川暁夫（元陸上自衛隊テストパイロット）8月2日 「消防防災ヘリコプター 指揮と運用そして救助される立場から」
第6回／米山伸郎（日販グローバル代表取締役）8月30日 「知識産業立国イスラエルーイスラエルから何を学ぶべきか」
第7回／加藤晴之（書籍編集者、元『週刊現代』編集長）9月27日 「ベストセラーを作る編集」
第8回／小泉悠（未来工学研究所研究員）10月25日 「復活したロシアの軍事力と日本」
第9回／小川和久（静岡県立大学特任教授）11月15日 「平和の実現と軍事報道 トランプ時代の国際情勢と日本の安全保障」
第10回／楊井人文（FIJ事務局長、弁護士）11月29日 「ファクトチェックと従来型報道は何が違うのか？—様々な誤解を正す—」

静岡県立大学ジャーナリズム公開講座 受講申込書			
氏名	フリガナ		
住所	〒		
電話番号		職業	
E-mail / FAX		年齢	歳

お申込先はFAX:054-245-5603または nishi@u-shizuoka-ken.ac.jp
 電話:054-245-5600 前日までにお申込みできない場合、当日に受付で申込書にご記入ください。